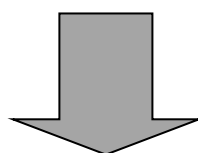


		低学年	中学年	高学年
身に付けさせたい力	1年	<ul style="list-style-type: none"> ○数についての感覚を豊かにする。 ○数の意味や表し方について、理解できるようにする。 ○量の大きさについての感覚を豊かにする。 ○図形についての感覚を豊かにする。 ○数量やその関係を言葉、数、式、図などに表したり読み取ったりすることができるようにする。 ○加法及び減法の意味について理解し、それらの計算の仕方を考え、用いることができるようにする。 <p style="text-align: right;">（1年）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○乗法についての理解を深め、適切に用いることができるようにする。 ○除法の意味について理解し、その計算の仕方を考え、用いることができるようにする。 ○小数及び分数の意味や表し方について、理解できるようにする。 ○長さ・重さ及び時間の単位と測定について、理解できるようにする。 ○図形を構成する要素に着目して、二等辺三角形や正三角形などの図形について、理解できるようにする。 ○数量やその関係を言葉・数・式・図・表・グラフなどに表したり、読み取ったりすることができるようにする。 ○数量や図形についての感覚を豊かにする。 ○身の回りの事象をデータの特徴に着目して捉え、簡潔に表現したり適切に判断したりする力を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○整数の性質についての理解を深める。 ○小数の乗法及び除法や分数の加法及び減法の意味についての理解を深め、それらの計算の仕方を考え、用いることができるようにする。 ○三角形や平行四辺形などの面積及び直方体などの体積を、求めることができるようにする。 ○測定値の平均及び異種の二つの量の割合について、理解できるようにする。 ○平面図形についての理解を深めるとともに、角柱などの立体図形について、理解できるようにする。 ○数量の関係を考察するとともに、百分率や円グラフなどを用いて、資料の特徴を調べることができるようにする。
	2年		<ul style="list-style-type: none"> ○除法についての理解を深め、適切に用いることができるようにする。 ○小数及び分数の加法及び減法の意味を理解し、計算の仕方を考え、用いることができるようにする。 ○概数について理解し、目的に応じて用いることができるようにする。 ○面積の単位と測定について理解し、図形の面積を求めることができるようにする。 ○角の大きさの単位と測定について、理解できるようにする。 ○図形を構成要素及びそれらの位置関係に着目して考察し、平行四辺形やひし形などの平面図形及び直方体などの立体図形について、理解できるようにする。 ○数量やその関係を言葉・数・式・図・表・グラフなどに表したり、調べたりすることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○分数の乗法及び除法の意味についての理解を深め、それらの計算の仕方を考え、用いることができるようにする。 ○円の面積及び角柱などの体積を求めることができるようにするとともに、速さについて理解し、求めることができるようにする。 ○縮図や拡大図、対称な図形について理解し、図形についての理解を深める。 ○比や比例について理解し、数量の関係の考察に、関数の考えを用いることができるようにする。 ○文字を用いて式に表すことができるようにする。 ○資料の散らばりを調べ統計的に考察することができるようにする。

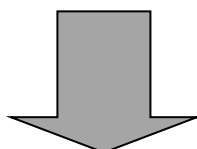


		低学年	中学年	高学年		
児童の実態	1年	<ul style="list-style-type: none"> ○1から10の数字の読み書きは概ねできる。 ○「いくつといくつ」(数の構成の理解) やたし算、ひき算の定着にはまだ個人差が見られるために、計算の際にブロックなどの具体物が必要な児童もいる。 ○操作では計算ができて、式を作ることができなかったり、言葉での説明が十分にできなかったりする児童がいる。 ○文章題の内容を掴めなかったり、問題場面を式に表すことができなかったりする児童がいる。 ○計算を行うとき、指を使いながら行う児童がいる。 	3年	<ul style="list-style-type: none"> ○半数以上の児童は基本的な計算技能が身に付いている。 ○問題が解けていても、自分の考えを説明することに対して消極的な児童と積極的な児童と二極化している。 ○学習内容を理解していても、それを活用する力が弱い。 ○学習した内容をノートに記述したり、それを使って説明したりすることについて、児童間の差が大きい。 ○問題を考える際に、解き方を技能として身に付けることはできているが、演算決定の根拠や説明が苦手な児童が多い。 ○時刻と時間についての知識の定着が不十分な児童が見られる。 	5年	<ul style="list-style-type: none"> ○新たな課題に対して既習事項を用いて答えを出すことに意欲的な児童が多いが、独自の考え方を出そうとする児童は限られている。 ○数直線を用いての演算決定の方法など、既習スキルの定着や活用が不十分な児童が見られる。 ○技能の差が大きい。四則演算での計算ミスや、計算に時間がかかるため、正答に辿り着きづらい児童がいる。
	2年	<ul style="list-style-type: none"> ○繰り上がりのあるたし算、繰り下がりのあるひき算の仕方についてはほとんどの児童が理解できている。 ○問題を考える際に、解き方を技能として身に付けることはできているが、演算決定の根拠や説明が苦手な児童が多い。 ○計算にかかる時間の個人差が大きい。 ○長さや水のかさの単位変換が苦手な児童が見られる。 ○時刻と時間についての知識の定着が不十分な児童が見られる。 	4年	<ul style="list-style-type: none"> ○問題に対し、図を手掛かりに解こうとする児童が増えてきている。 ○一つの問題から複数の考え方を出すことのできる児童が少ない。 ○自分や友達の考え方を図表を使って分かりやすく説明できる児童が少ない。 ○学習内容の定着において、個人差が大きく、繰り返し反復練習する時間を確保する必要がある。 ○手先を思うように動かせず、作図が苦手な児童が多い。 	6年	<ul style="list-style-type: none"> ○自力解決の場面において、公式や解き方は知っているが、どうしてその公式が使えるのかを説明することができる児童が少ない。個人差が大きく自力解決が苦手な児童が見られる。 ○計算の処理能力を高めることへの関心・意欲が高い児童が多い。 ○分数の文章題に苦手意識をもつ児童が多く、除法と乗法を逆に立式してしまうことが多く見受けられた。計算はできるが、立式や約分することについての理解が深まっていない児童がいる。



	低学年	中学年	高学年		
1 年	<p>○下記の項目をキーワードとして学習活動を進める。</p> <p>①整理して表す ②言葉・図・式を用いて表す。 ③比べる活動をする ④見付ける ⑤作る・分解する ⑥式に表す ⑦式に場面を結び付ける</p> <p>○興味をもって取り組めるように、身の回りのものや具体物を用いた活動を積極的に取り入れる。</p> <p>○分かりやすいノート作りを意識させる。</p> <p>○学習の振り返りをすることで、個々の学習意欲や内容理解の様子をより詳しく掴めようにする。</p> <p>○ブロックなどの具体物の使用や、プリントによる計算練習をくり返し行い、計算を念頭操作で行えるようにしていく。</p> <p>○全体で発表する前に、少人数グループで全員が発表する機会を設け、安心してみんなの前で発表できるようにする。</p> <p>○ICT機器や電子黒板を効果的に活用し、視覚的に理解しやすいようにする。</p>	3 年	<p>○下記の項目をキーワードとして学習活動を進める。</p> <p>①問題意識をもたせる ②自分の考えをもつ ③考えを自分が分かるよう表現する ④具体物・図・数直線で表す ⑤比べる ⑥調べる ⑦作図する ⑧分類整理する ⑨式に表す</p> <p>○目的意識をもたせるために、単元の導入を工夫することを中心に、何を学ぶのかを明確なめあてにする。</p> <p>○既習の学習事項を使って、自分の考えの根拠や問題解決の過程をノートに書く活動を多く取り入れる。</p> <p>○友達の考えた式や図を読む活動を意図的に取り入れる。</p> <p>○単元後も学習した内容の問題を繰り返し解くことで、知識の定着、計算・技能の正確性を高めていく。</p> <p>○ICT機器や電子黒板を効果的に活用し、視覚的に理解しやすいようにする。</p> <p>○ペアや少人数での話し合いで、自分の考えを言葉にしたり、友達の考えの分かりやすい説明の仕方を紹介したりすることで表現力を高めていく。</p> <p>○数学的活動や身の回りのもの、既習事項を活用して問題を解く学習を取り入れ、児童の興味・関心を高めていく。</p>	5 年	<p>○下記の項目をキーワードとして学習活動を進める。</p> <p>①見付ける ②見通しをもつ ③仕方を考える ④解決する ⑤関係を調べる ⑥説明する ⑦考えを深める</p> <p>○ノート指導を通して、既習事項を活用し、数学的な考え方を基に自力解決できるようにする。</p> <p>○少人数での話し合い・集団での考え方の練り上げが充実するよう、話し合い活動に重点を置いて指導する。互いの考えを比較・検討し、振り返って考える時間を確保する。</p> <p>○図や数直線、数の置き換え等を活用し、立式する力を育成する。</p> <p>○単元後も学習した内容の問題を繰り返し解くことで、知識の定着、計算・技能の正確性を高めていく。</p> <p>○作図問題の反復や、ペアでの確認作業を行うことで、作図の技能を高めていく。</p> <p>○ICT機器や電子黒板を活用し、視覚的に理解しやすいようにする。</p>

2 年	<p>○下記の項目をキーワードとして学習活動を進める。</p> <p>①見付ける ②構成する ③観察する ④見当を付ける ⑤測定する ⑥書く ⑦作る ⑧敷き詰める ⑨図や式に表す ⑩説明する</p> <p>○ノートは見開きで使用し、友達が見ても分かりやすいノート作りを指導していく。</p> <p>○思考・表現力を伸ばしていくため、1時間の中で思考する場面を意図的に設定していく。</p> <p>○教師が説明の仕方を示したり、友達のわかりやすい説明を紹介したりすることで、表現力を高めていく。</p> <p>○単元後も学習した内容の問題を継続的に解くことで、知識の定着、計算・技能の正確性を高めていく。</p> <p>○ペアや全体での学び合いを通して、「今まで気付かなかったことが気付けた。」と児童が実感できる授業を行っていく。</p> <p>○ICT機器や電子黒板を活用し、視覚的に理解しやすいようにする。</p>	4 年	6 年
		<p>○下記の項目をキーワードとして学習活動を進める。</p> <p>①見積もりをする ②説明する ③敷き詰める ④性質を調べる ⑤共通点や関係を見付ける ⑥表やグラフを用いて表す ⑦調べる</p> <p>○ノート指導を通じて「数直線」「言葉の式」「関係を表す図」等にかき表せるようにし、複数の考えをもてるようにする。それを手掛かりとして解き方や考え方が広がるようにする。</p> <p>○既習の学習事項を使って、自分の考えの根拠や問題解決の過程をノートに書く活動を多く取り入れる。</p> <p>○ペアやグループでの話し合いの活動を取り入れる。</p> <p>○単元後も学習した内容の問題を繰り返し解くことで、知識の定着、計算・技能の正確性を高めていく。</p> <p>○作図問題の反復やペアでの確認作業を行うことで作図の技能を高めていく。</p> <p>○ICT機器や電子黒板を活用し、視覚的に理解しやすいようにする。</p>	<p>○下記の項目をキーワードとして学習活動を進める。</p> <p>①見付ける ②見通しをもつ ③仕方を考える ④解決する ⑤関係を調べる ⑥説明する ⑦考えを深める</p> <p>○ノート指導を通して、既習事項を活用し、算数的な考え方を基に自力解決できるようにする。</p> <p>○少人数での話し合い・集団での練り上げが、より合理的な表現や考え方に高まるよう、話し合い活動に重点を置いた指導を行う。</p> <p>○図や数直線、数の置き換え等を活用し、正確に立式する力を育成するために、文章問題を意図的に学習に取り入れる。</p> <p>○数学的活動や既習事項を活用して問題を解く学習を取り入れ、児童の興味・関心を高めていく。</p> <p>○単元後も学習した内容の問題を繰り返し解くことで、知識の定着、計算・技能の正確性を高めていく。</p> <p>○作図や面積、体積の学習では、ICT機器や電子黒板を活用し、視覚的に理解しやすいようにする。</p>



	低学年	中学年	高学年
成果（○）と課題（●）	1年 <ul style="list-style-type: none"> ○ブロックや絵のカードを用いることで、興味をもって取り組む児童が増えた。 ○拡大投影機を使ってノート指導を行ったことで、書くことが苦手な児童もスムーズにノートを書けるようになってきた。 ○自分の考えを説明する際、その根拠を半具体物の操作や図を用いて説明できるようになってきた。 ○拡大投影機を活用しながらノート指導を行い、式や答えだけでなく、図や言葉を用いて考えることができるようになってきている。 ○学習の振り返りを行い、自分の考えをまとめたり、発表したりすることで、学習意欲を高めたり、友達と自分の考えを比べたりすることができるようになってきている。 ●発表する前に、ペアやグループで発表の練習をしたり、意見を交換したりしたが、考えをすすんで発表できる児童は偏っているので、場を設ける工夫をしていく。 	3年 <ul style="list-style-type: none"> ○問題を捉えるときに、何に答えればよいのか、という意識することができるようになった。 ○既習事項を意識させることで、問題解決の過程で自分の考えの根拠を説明することができるようになった。 ○隣の人やグループの中で確認したり、話し合ったりする活動を取り入れることで、表現したり受容したり考えを高め合ったりする機会を設けることができた。 ○デジタル教科書の活用により、児童に視覚的に理解を促し、深めることができた。 ●技能や知識・理解の差が大きくなってきている。一人一人の状況を見取り、個に応じた指導を工夫していく必要がある。 	5年 <ul style="list-style-type: none"> ○ノート指導を通して、既習事項を活用し、自力解決したり、複数の考え方で求めようとしたりする児童が増えてきた。 ○ペアやグループなどを積極的に取り入れ、活動形態を工夫したことで、互いの考えを比較・検討することができ、学習を深めることができた。 ○説明の際、同じやり方でも、自分の言葉で説明する機会をより多く設けたことで、説明の仕方を身に付けたり、自信をもって発表をすることができるようになった。 ○ICT機器や電子黒板を活用することによって、視覚的に分かりやすく、理解しやすくなった。 ●単位数あたりの大きさや百分率の単元を苦手とする児童が多かった。計算ドリルや習熟プリントを使い、反復練習することで理解を深め、定着を図る。 ●知識・理解の定着度が低い児童は意欲も低い傾向がある。具体物の操作や具体的な問題を提示して、計画的に学習していく。

<p>2 年</p>	<p>○ノートの使用、取り方を継続的に指導したことで、見やすいノート作りができるようになってきている。</p> <p>○説明や表現の仕方の例示を継続的に行ったことで、順序立てたり、分かりやすさを意識したりして説明できるようになってきている。</p> <p>○学習した内容の問題を繰り返し解くことで、知識の定着、正確性を高めることができた。</p> <p>○デジタル教科書を活用することで時計の読み方や水のかさの量り方など、児童が視覚的に理解するのに効果的であった。</p> <p>●学習したことを活用して解く問題や、記述説明を要する問題が苦手な児童が多くいる。様々な問題に触れる体験を増やしたり、解答を全体で確認した後、再度類題を解く機会を設定したりすることで、習熟を図っていく。</p>	<p>4 年</p> <p>○自力解決のとき、既習事項を使って説明する力が身に付いてきている。</p> <p>○諦めずに時間をかけて問題に取り組む姿勢が見られるようになった。</p> <p>○問題を考える時、図を使って立式し、言葉で説明できる児童が増えた。</p> <p>○友達の様式や意見から、自分の考えを広げたり、深めたり、また新たに作り直したりする児童が見られるようになってきた。</p> <p>○電子黒板の活用により、児童に視覚的に理解を促し、深めることができた。</p> <p>○児童同士で自分の考えを説明したり、教え合ったりする場面が見られた。</p> <p>●作図を苦手とする児童がいるため、作業をする時間を確保し、技能の習熟へ繋げていく。</p> <p>●面積の求め方は理解できているが、m^2をcm^2に変換したり、$a \cdot ha$への理解があいまいだったりなど、単位のつまずきが見られた。ICTを活用し、実感の伴った理解となるよう改善していく必要がある。</p> <p>●計算や問題の読み間違い等のミスが多い。見直しをする習慣をつけさせて、ケアレスミスをなくしていく。</p>	<p>6 年</p> <p>○自力解決のとき、既習事項を使って説明する力が身に付いてきている。また、複数の方法で解答を導き出すことができるようになった。しかし、知識を生かして自分の言葉で説明できる児童は、個人差がある。</p> <p>○立式の際、図や数直線を用いて説明をする活動を設定したことで、自力で立式できる児童が増えた。</p> <p>○算数的活動や既習事項を活用して問題を解く学習を取り入れるなど、課題を工夫することで児童の関心・意欲を高めることができた。</p> <p>○デジタル教科書の活用により、児童に視覚的に理解を促し、深めることができた。</p> <p>●発言する児童が固定化してしまうことがあった。普段の授業からの動機付けや、確認問題などを意図的に取り入れていくことで、発言に対しての抵抗感を下げていく指導が必要。</p>
----------------	--	---	---